

5 ブロイラー農場における頭部腫脹症候群発生事例

沖縄県北部家畜保健衛生所 ○奥村 尚子、仲村 真理、中尾 聡子
沖縄県家畜衛生試験場 鈴木 萌美、石井 圭子、豊島 靖

頭部腫脹症候群は、主にブロイラーで発生する頭部腫脹を特徴とする疾病であり、七面鳥鼻気管炎（TRT）、伝染性気管支炎（IB）、大腸菌等の混合感染が示唆されている。一方、最近では大腸菌症の一病型として考えられている。2016年5月、沖縄本島北部のブロイラー農場で、33日齢鶏群における頭部腫脹を主症状とする死亡羽数増加の通報があった。病性鑑定の結果、大腸菌による頭部腫脹症候群と診断したのでその概要を報告する。

【発生概要】当該農場は平飼い、開放鶏舎を24鶏舎有しており、約20万羽のブロイラーを飼養し、そのうちの1鶏舎33日齢鶏群で死亡羽数の増加がみられ、当家保へ異常家きんの通報があった。臨床症状は頭部腫脹、沈鬱、嗜眠、脚弱、開口呼吸などであった。鳥インフルエンザの簡易キットで陰性を確認した後、病性鑑定を実施した。

【材料および方法】当該鶏舎の33日齢衰弱鶏5羽、死亡鶏5羽を病性鑑定した。ウイルス検査は、鼻腔スワブ、肺を用いて七面鳥鼻気管炎ウイルス（TRT）のnested-PCR法にて実施、酵素標識抗体法（ELISA）にて伝染性気管支炎（IB）の抗体検査を行った。細菌検査は、衰弱鶏由来の主要臓器および眼窩周囲組織を用いて、血液寒天培地37℃、5%CO₂、48時間培養、ESサルモネラⅡ寒天培地37℃、好気48時間培養した。また、鼻腔スワブ、肺を用いて、チョコレート寒天培地37℃、5%CO₂、48時間培養した。マイコプラズマ検査は、鼻腔スワブ、肺を用いて *Mycoplasma gallisepticum*、*Mycoplasma synoviae* のPCR検査および分離培養を実施した。病理検査は衰弱鶏5羽の頭部、主要臓器を用いて定法に基づき実施した。

【結果】採材鶏10羽中6羽に顔面腫脹が認められ、剖検所見は、眼窩下洞および眼窩周囲皮下に膿の貯留、腹部の蜂窩織炎、死亡鶏においては心臓、肝臓への線維素析出がみられた。TRTのnested-PCRは陰性、IBの抗体検査は陰性であった。細菌検査では、肝臓、眼窩周囲組織より大腸菌が分離された。マイコプラズマ検査では、PCR陰性、分離陰性であった。病理組織検査では、眼窩周囲皮下膿瘍および肉芽腫性炎、肝臓の多巣性壊死が認められた。

【まとめ】本症例は、病変部から大腸菌が純培養的に分離されたため、大腸菌による頭部腫脹症候群と診断された。対策として、淘汰の強化およびストレスによる他疾患誘因を軽減するためのビタミン剤投与を指導、他鶏舎への伝播を防ぐため鶏舎間通路への消石灰散布を実施した。